

## 中国人学習者の「なんか」の使用について

著者	林 筱
雑誌名	平安女学院大学研究年報
号	17
ページ	90-100
発行年	2017-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1475/00002301/">http://id.nii.ac.jp/1475/00002301/</a>

# 中国人学習者の「なんか」の使用について

林 箬\*

## 要 旨

日本人に多く使われている曖昧表現は、中国人学習者にとっては習得しにくい表現である。日本語の曖昧表現「なんか」に対して、中国人学習者はどのように理解し、使っているのかを明らかにするため、本論文はコーパス調査とアンケート調査を行った。調査により、中国人学習者の「なんか」の使用と日本語母語話者の使用と大きな差があることが分かった。また、「なんか」の各用法・機能から中国人学習者の認識様態と使用状況を詳しく分析してみると、中国語の「什麼」に対応できる代名詞の「なんか」の産出は学習者にとってはむずかしくないが、中国語の発話習慣であり使われていない副助詞と前置きの「なんか」は学習者に口癖として使われたり、「あのう」のようなフィラー表現として認識され使われたりしていることも明らかになった。

## 1. はじめに

曖昧表現「なんか」は中国人学習者にとって、習得しにくい表現である。崔（2007）では「日本人はどのようにして中国人より曖昧な言語表現をするのか。それは、日本人が中国人より相手のことを気遣い、自分の感情を曖昧に表現することを好むからである」と述べている。では、なぜ日本人が中国人より他人に気を遣っているのかについて、崔（2007）は「日本人は中国人より他人と一緒にしろという気持ちが強く、他人と一緒にするための手段として、相手のことを気遣い、自分の感情を曖昧に表現する」ことを指摘し、「こういった日本語の言語表現は、文化と密接な関係を持っている」と述べている。

上述のように、母語であり使っていない曖昧表現に対して、理解するのが難しいと感じている中国人日本語学習者は、普段どのように日本語の曖昧表現「なんか」を理解し、使っているのかを明らかにするため、本稿では「なんか」を対象として、コーパス調査とアンケート調査を行い、中国人学習者の「なんか」に対する認識様態と使用状況について考察する。

## 2. 先行研究

### 2.1 「なんか」の意味について

#### 2.1.1 『学研国語大辞典』（第2版）

『学研国語大辞典』（第2版）によると、「なんか」は以下のような意味があると書かれている。

- (1) 《連語》口語。{不定称の代名詞「なに」に助詞「か」がついた形「なにか」と転じたもの}
  - ① 任意の、また、不定の物・事をさす。
  - ② 並列の最後に並べられ、それらに類する不特定のあるものをさす。
- (2) 《副》どことなく。
- (3) 《副助》口語。{連語「なんか」が助詞化したもの} 副助詞「など」の用法にほぼ同じ。
  - ① など。それだけと限らない形で、あくまで一例として例をあげるのに用いる。表現をやわらげるのに役立つ。
  - ② など。{強い言いはなつ文の中で用いられて} 修辭的に例示の形をとることによってかえって

---

\*：中国厦門大学嘉庚学院日本語科

その語を強めるのに用いる。{下に否定的評価を伴いその評価の対象に対する、思いもよらないといった気持ちや、軽蔑、謙遜の気持ちなどがこめられる}

### 2.1.2 『明鏡国語辞典』(携帯版)

『明鏡国語辞典』(携帯版)における「なんか」の解釈は以下である。

- (1) なんか(副助詞) — 連語「なんか」が助詞化したもの。
  - ①体言に付いて、例として取り上げる。～など、～なんて。
  - ②下に打ち消しや否定的な表現を伴い、いろいろな語に付いて軽んじる気持ちを取りあげる
- (2) なんか(何か) — 不定の代名詞「なに」+終助詞の「か」の転。
  - ①(連語)「なにか」の、くだけた言い方。
  - ②(副詞)「なにか」も、くだけた言い方、または、ことばのつなぎに使う語。

## 2.2 「なんか」の機能について

内田(2001)は、「なんか」の用法を代名詞、副助詞と前置き表現の3種類に分類し、さらに、前置き表現「なんか」を「話題開始」「話題の展開」「発話内容の具体化」「次の部分へのつなぎ」「引用」「話題対象への評価」の六つの機能に分類している。表1は内田(2001)の分類を示したものである。

表1 「なんか」の用法と機能

①代名詞	
②副助詞	
③前置き表現	a 「発話の開始」 b 「話題の発展」 c 「発話内容の具体化」 d 「次の部分へのつなぎ」 e 「引用」 f 「話題対象への評価」

以上の意味・用法に関する先行研究に踏まえ、本稿はコーパス調査とアンケート調査を用い、中国人学習者の「なんか」についての認識様態と使用実態を明らかにしたい。

## 3. コーパス考察

本研究は、「なんか」を対象に、中国人学習者の使用状況及び日本語母語話者の使用と差があるかどうかを究明するため、『KY コーパス』<sup>1)</sup>と『名大会話コーパス』<sup>2)</sup>を用い、調査を行った。

### 3.1 両コーパスにおける「なんか」の使用頻度

日本語学習者と日本語母語話者の会話における「なんか」の出現頻度が同じであるかどうかを確認するため、まず使用頻度について調査を行った。調査の結果を表2に示す<sup>3)</sup>。

表2 話し言葉における「なんか」の使用頻度

	日本語母語話者	中国語母語話者	韓国語母語話者	英語母語話者
出現数	412	191	418	276
全形態素	183739	175702	167773	173325
頻度%	0.22	0.11	0.25	0.16

表2から、会話において、日本人も学習者も「なんか」を一定の頻度で使っていることがわかる。また、文法体系及び発話習慣が日本語と似ている韓国語母語話者の会話における「なんか」の出現頻度と日本語母語話者のとほぼ同じであることも明らかになった。それから、中国語母語話者が韓国語母語話者と英語母語話者と比べると、「なんか」の使用頻度が低いことも明らかになった。このような現象があるのは、日本語学習者の曖昧表現の使用は自分の母語に影響されているからだと言えるだろう。

### 3.2 中国人学習者の「なんか」の具体的な使用状況

中国人学習者の「なんか」の使用状況を調べるため、今回は『KY コーパス』から中国人学習者のデータだけを抽出し、分析を行った。コーパスの中で中国人学習者と日本語母語話者は、表1に示した「なんか」のそれぞれの用法をどのように使っているのかを表3に示す<sup>4)</sup>。

表3 「なんか」の各用法の使用状況

「なんか」の用法と機能	中国人学習者		日本語母語話者		
	使用数	割合 (%)	使用数	割合 (%)	
①代名詞	22	17.1	69	16.7	
②副助詞	5	3.9	49	11.9	
③前置き表現	a	17	13.2	51	12.4
	b	34	26.4	73	17.7
	c	24	18.6	53	12.9
	d	5	3.9	37	9
	e	3	2.3	31	7.5
	f	16	12.4	20	4.9
「なんか」で文を終える	3	2.3	29	7	
合計	129	100	412	100	

表3で示しているように、副助詞という用法に関しては、日本語母語話者と比べ、中国人学習者の産出例が非常に少ない。特に、「～なんか～ない」という、「なんか」と「ない」が共起し、軽蔑の意味を表す用法は、中国人学習者の発話において、1例もなかった。また、例文を分類している際、「なんか」で文を終える用法が見られたが、内田（2011）の分類のどちらにも当てはまらないと思われたため、別の機能として取り出した。

それから、中国人学習者が最も多く使っているのは「話題の発展」、「発話内容の具体化」と「代名詞」の「なんか」である。これは日本語母語話者とほぼ同じであるが、中国人学習者の例文の中に、「なんか」の直前、直後に「あのう」というフィラーが多く出てきたのに対し、日本語母語話者の発話にそのような現象は少なかった。一方、母語話者の例文の中に数多く出てきた「～かなんか」という用法は、中国人学習者の産出例の中にほとんど見られなかった。詳細は、表4で示した。

表4 「なんか」と共起しやすい要素

	日本語母語話者		中国人学習者	
	出現数	「なんか」の使用例全体における割合 (%)	出現数	「なんか」の使用例全体における割合 (%)
あのう	9	2.2	33	25.6
か（「～かなんか」の用法）	25	6.1	1	0.8

表4から、中国人学習者が、「～かなんか」や「～とかなんか」という母語話者によく使われている曖昧表現をあまり使っていないことが分かった。その代わりに、「あのう」というフィラーを「なんか」と一緒に使うケースが母語話者より大幅に多かった。日本語能力が不十分である学習者の場合は、母語話者より、「あのう」を多く使うのは当然なことだとも言えるが、ここで、「あのう」が「なんか」の直前、直後に出現するのは、中国人学習者は「なんか」という表現を「あのう」のようなフィラーとして認識しているのではないだろうかと思われる。

コーパス調査から、中国人学習者の「なんか」の使用状況は日本人のと大きな差があることが分かった。中国人学習者は日本語の「なんか」をどのように認識しているのか、次項で分析する。

## 4. アンケート調査

### 4.1 調査の目的

「なんか」に対して、中国人学習者はどのように認識しているのかを考察するため、アンケート調査を行った。調査の目的は、中国人学習者の考えにおいて、「なんか」がどのような中国語に対応しているのかを明らかにすることだけであり、中国語翻訳文の正誤については論じない。

### 4.2 調査対象と方法：

日本語能力試験一級に合格し、日本で生活した経験がある中国人学習者30人に、調査を実施した。アンケートの形は、中国人学習者に「なんか」のそれぞれの用法で使われている日本語の例文を中国語に訳してもらった形式である。

アンケートの例文は内田(2001)と『中文文法』『日本語文型辞典』を参考に作成した。内田(2001)で分類した8つの機能用法に許(2005)『中文文法』の「文法書」の「様子」という項目を加え、合わせて「なんか」の9つの意味機能に関してアンケート調査を行った。具体的な問題は4.3で示す。

### 4.3 調査結果

#### 4.3.1 代名詞の「なんか」

アンケートの問題1、2、3は、「それとはっきり指し示すことのできない物事を表すのに用いられる」代名詞として使われる「なんか」の例文である。「なんか」についての中国人学習者の訳文を表5、表6と表7に示す。

問題1 なんか冷たいものが飲みたい。

表5 中国人学習者の訳文(問題1)

訳文	什麼	哎呀	翻訳していない
翻訳数(割合)	22 (73.4%)	1 (3.3%)	7 (23.3%)

70%以上の学習者は「なんか冷たいものが飲みたい」の「なんか」を「什麼(なにか)」に翻訳した。7人の学習者はこの「なんか」を訳しなかった。残った1人は「なんか」を感動詞として捉え、「哎呀」に翻訳した。この結果から見ると、大部分の学習者は代名詞の「なんか」を中国語の「什麼」と認識している。

問題2 (朝、学校で友達に会い、その友達の目が充血していた時などに)  
なんかあったの？

表6 中国人学習者の訳文（問題2）

訳文	什麼	翻訳していない
翻訳数（割合）	11 (36.7%)	19 (63.3%)

30人の中に19人は日本語の「なんか」を翻訳しなかった。残りの11人は「什麼（なにか）」と翻訳した。一般的にこのような場面で、中国語で発話する時、「什麼」を言わない場合が多い。このため、多くの学習者は「なんか」についての翻訳を省略したのだと思われる。だから、この例の「なんか」も中国語の「什麼」と対応できるのではないかと思われる。

- 問題3 A：挨拶文書いてよ。  
B：なんか見ないと書けないよ。

表7 中国人学習者の訳文（問題3）

訳文	什麼	觉得	誤答	翻訳していない
翻訳数（割合）	19 (63.3%)	2 (6.7%)	5 (16.7%)	4 (13.3%)

この例では、正しく翻訳した協力者のほぼ全員は「なんか」を中国語の「什麼（なにか）」に訳した。中国人学習者は、問題3のような例に出てきた代名詞の「なんか」が中国語の「什麼」だと認識している可能性が高いと分かった。5名の協力者は例文の意味を理解できず、正しく翻訳できなかったため、ここで論じない。

上述のように、学習者は代名詞の「なんか」を中国語の「什麼」と認識していると考えられる。

#### 4.3.2 様子の「なんか」

問題4と問題5は「なぜかわからないが」、「なんとなく」といった意を表す「なんか」の例文である。中国人学習者は「なんか」を表8と表9のように訳した。

問題4 あの人の、なんか、どこかで見た気がする。

表8 中国人学習者の訳文（問題4）

訳文	好像	總覺得
翻訳数（割合）	12 (40.4%)	18 (60%)

この例に関しては、日本語の「なんか」は、中国語の「好像」・「總覺得」と訳された。中国語では「好像」・「總覺得」は「なぜかわからないが」、「なんとなく」といった意味であり、文法書に書いてある様子の「なんか」の説明と一致しているため、この例の「なんか」は中国語の「好像」、「總覺得」と対応できると思われる。

問題5 なんか嬉しそうな顔だ。

表9 中国人学習者の訳文（問題5）

訳文	好像	誤答	翻訳していない
翻訳数（割合）	11 (36.7%)	1 (3.3%)	18 (60%)

この例文に関しては、「なんか」を「好像」に訳した協力者が11人いたが、訳していない人も過半数いた。問題5のような発話場面において、日本の発話習慣では「なんか」を言うが、中国語の発話習慣では「好像」を言わない場合が多い。よって、この場合の「なんか」と中国語の「好像」とは、

両方とも「なぜかわからないが」、「なんとなく」というニュアンスを含んでいると言えるが、「なんか」と「好像」とは一一对応しているとは言えないと思われる。

#### 4.3.3 副助詞の「なんか」

問題6は副助詞として使われる「なんか」の例文である。この時の「なんか」は、名詞や動詞、名詞+助詞などのさまざまな成分に付き、その後に否定を表す表現を従える。

問題6 私なんかはこの仕事はできません。

表10 中国人学習者の訳文(問題6)

訳文	好像	感觉/觉得	像…这样的	翻訳していない
翻訳数(割合)	3 (10.0%)	3 (10.0%)	8 (26.7%)	16 (53.3%)

この「なんか」の中国語翻訳には様々な表現が出てきた。過半数の翻訳文には「なんか」が訳されなかった。6人の学習者は、この例文の「なんか」を「様子」の機能が付いている「なんか」と考え、「好像」、「覺得」に翻訳した。また、8人の学習者は「なんか」を「像…這樣的」と翻訳した。中国語の「像…這樣的」意味は、「～のような」であり、副助詞の「なんか」の用法に近いが、必ずしも対応しているとは言えないと思われる。

この調査結果から、学習者の考えにおいて、副助詞機能の「なんか」に対応している中国語表現は特定しにくいと分かった。

#### 4.3.4 話題開始の「なんか」

問題7は前置き表現の「なんか」が話題開始に用いられる例である。この時の「なんか」はそこから新しい話題が始まることを相手に示す前置き表現である。

問題7 A: もうすぐクリスマスだね…

B: そうだね。なんか、この前お台場行った時にね、

A: うん。

B: 友達と行ったんだけど…

表11 中国人学習者の訳文(問題7)

訳文	好像	總覺得	那啥/那什麼	翻訳していない
翻訳数(割合)	4 (13.4%)	1 (3.3%)	9 (30.0%)	16 (53.3%)

表11から、中国人学習者の考えにおいて、話題開始の「なんか」に対応している中国語がいくつかあることが分かった。半数くらいの学習者はこの「なんか」を訳さなかった。また、「なんか」を中国語の「那什麼」、「那啥」に翻訳した学習者が9人いた。中国語の「那什麼」、「那啥」は日本語の「えーと」「あのう」などに相当する会話の途中に入れる感動詞である。つまり、一部の学習者は問題7の「なんか」を1種類のフィラーとして認識している。このことによって、学習者の「なんか」を「あのう」と一緒に使う現象をも説明できるのではないだろうか。それから、5人の学習者は話題開始の「なんか」を様子の機能が付いている「なんか」と考え、「好像」と「總覺得」に翻訳した。というのは、日本語の発話開始機能を備えた「なんか」に完全に対応できる中国語表現はないのである。

#### 4.3.5 話題発展の「なんか」

問題8は話題の発展を表す「なんか」の例である。この時の「なんか」は、前に話題になっていることとの関連性を保ちつつ、新たな部分を際立たせて話題を発展させる用法である。

- 問題8 A：この前メールでこんなこと言われて。  
 B：友達に？  
 A：ひどいでしょ？  
 B：うん、なんか文字だと顔見えないから、言えるのかもね

表 12 中国人学習者の訳文 (問題 8)

訳文	誤答	翻訳していない
翻訳数 (割合)	2 (6.7%)	28 (93.3%)

問題8に関しては、この会話に出た「なんか」が全く訳されなかった。つまり、話題の発展という機能が付いている「なんか」に対応できる中国語の表現がないのであろう。中国語の場合、話題展開の時、特定の言語マーカーを使うことにより、話題を発展させる習慣がない。言い換えると、中国語においては、このような発話習慣がないから、学習者は、「なんか」の部分を翻訳しなかったのだと言える。

#### 4.3.6 発話内容の具体化の「なんか」

問題9は発話内容の具体化という機能を有する「なんか」の例文である。

- 問題9 A：それ誰の手帳？  
 B：分からない。  
 A：落ちてたの？  
 B：うん。なんか“E.T”ってかいてある。

表 13 中国人学習者の訳文 (問題 9)

訳文	好像/好像…什麼	之类/什麼	翻訳していない
翻訳数 (割合)	15 (50.0%)	8 (26.7%)	7 (23.3%)

この文の「なんか」については、半数の学習者は様子の機能が付いている「なんか」と考え、「好像…什麼」、「好像」と翻訳し、8人の学習者は代名詞の機能が付いている「なんか」と考え、「之類」、「什麼」と翻訳していた。そして、残った7人の学習者は文の中の「なんか」の翻訳を省略した。調査の結果から、発話内容の具体化の「なんか」は中国語母語話者にとって、「様子」および「代名詞」の「なんか」と認識している人が多いと分かった。「なんか」という言葉を「発話内容の具体化表現」という機能と結びついていないのである。

#### 4.3.7 次の部分へのつながりの「なんか」

問題10は同じ文中で次の部分につなぐ機能を果たしている「なんか」の例文である。

- 問題10 A：それ素敵なノートだね。  
 B：ありがとう。  
 A：自分で飾ったの？  
 B：うん。売ってるノートって、なんかさ、可愛くないじゃん？  
 自分好みのがなくて…  
 A：うん。

表 14 中国人学習者の訳文 (問題 10)

訳文	总覺得/感覺	誤答/翻訳できなかった	翻訳していない
翻訳数 (割合)	21 (70.0%)	3 (10.0%)	6 (20.0%)



大部分の学習者は次の部分へのつなぎの「なんか」を様子の機能が付いている「なんか」と捉え、「总觉得」、「感覺」と訳した。2人の学習者は翻訳できないと書いており、1人はこの文の意味を間違えた。また、6人の学習者はこの「なんか」を中国語に翻訳しなかった。つまり、この6人の考えにおいて、次の部分へのつなぎの「なんか」に対応できる言葉がないと言える。この結果から、「次の部分へのつなぎ表現」という「なんか」に対応できる中国語表現も特定しにくいことが分かった。

#### 4.3.8 引用の「なんか」

問題11は「なんか」の引用の機能を示す例である。

問題11 A：バイトの後輩がね、なんか“今度合コンする”って言ってたよ。

B：ふーん。

表15 中国人学習者の訳文（問題11）

訳文	之类/什麼	好像	居然/竟然	翻訳していない
翻訳数（割合）	5（16.7%）	4（13.3%）	4（13.3%）	16（53.4%）

過半数の中国人学習者は問題11の「なんか」を翻訳しなかった。これは中国語においては引用の機能を示す言語のマーカがないと関係があると思われる。また、5人の学習者はこの文の「なんか」を様子の「なんか」と捉え、「好像」と翻訳した。残った4人は「なんか」を意外な気持ちを表す「居然」、「竟然」に訳した。つまり、「なんか」が引用の機能を持っていることは学習者の意識にないと分かった。しかも、この「なんか」に対応できる中国語表現も特定できないのである。

#### 4.3.9 話題対象への評価の「なんか」

問題12は話題対象への評価を示す例である。

問題12 A：バイトの上司がね、

B：うん。

A：なんかね、感じ悪いの。

表16 中国人学習者の訳文（問題12）

訳文	总觉得/感覺	翻訳していない
翻訳数（割合）	28（93.3%）	2（6.7%）

中国語の翻訳文から見ると、ほぼ全員の学習者は問題12の「なんか」を様子の「なんか」と捉え、「总觉得」、「感覺」と翻訳した。このような結果が出たのは翻訳文の中に「感じ悪い」の「感じ」という言葉と関係があるのではないだろうか。「感じ」の中国語訳は「感覺」であり、この単語に影響され、ほぼ全員の翻訳文に「感覺」が出てきたのだと言える。このため、話題対象への評価との機能を持っている「なんか」に対応する適切な中国語がないと思われる。

## 5. 分析

本稿は「なんか」の9つの機能について考察を行った。コーパス調査から、中国人学習者の「なんか」の使用と日本人母語話者の使用と大きな差があることが分かった。また、アンケート調査から、中国人学習者は日本語の「なんか」をどのように認識しているのかが分かった。アンケート調査の結果を以下のようにまとめる。

まず、学習者の認識において、「代名詞」の日本語の「なんか」は中国語の「什麼」と対応する場が多かったことが分かった。白水社中国語辞典（白水社）の説明によると、中国語の「什麼」は一

般的には疑問代詞と認識されており、どんな人・物なのか、種類や内容を聞くときには「什麼」をその名詞の前に置くが、ほかの用法も色々ある。「什麼」の具体的な用法を以下に示す。

表 17 「什麼」の用法

A. 「什麼＋名詞」の形で用い、職業、時間、人などを尋ねる。 例：什麼職業。(お仕事は。)
B. 「動詞/形容詞＋什麼」の形で用い、疑問の口調で否定の意味を表す。 例：急什麼，還早呢！（何焦っているの、まだ早いじゃない。）
C. 「什麼…啊/…什麼的」の形で用い、例を挙げるという意味を表す。 例：我喜歡看書。像小說，散文，詩歌什麼的我都喜歡。 (私は読書が好きだ。小説、散文詩歌など全部好きだ。)
D. 任意指示。「疑問代詞…都(也)…」の形で用いる。 例：什麼時候都可以來。(いつ来ても大丈夫です。)
E. 一般広く指す。「…疑問代詞…疑問代詞」の形で用いる。 例：想吃什麼就吃什麼。(食べたい物を食べてください。)
F. 説明の必要がない人、或いは事物を指す。 例：想吃點什麼。(何か食べたい。)

表 17 に示されているように、代名詞の「なんか」は「什麼」の F の用法に近いと思われる。翻訳アンケート調査で多くの学習者も代名詞の「なんか」を「什麼」に翻訳した。また、『KY コーパス』から学習者の代名詞の「なんか」の産出には特に問題がないことも証明された。つまり、代名詞「なんか」の習得は中国人学習者にとっては、難しくない。

次に、学習者の意識において、「様子」の機能が付いている日本語の「なんか」は中国語の「好像」、「總覺得」と対応している場合が多くみられた。中国語の「好像」、「總覺得」の品詞分類に関しては、中国学界においても様々な言い方があるが、一般的には「語気助詞」や「助動詞」、「副詞」などと認識されている。これらの用法は日本語の「なんか」より「ようだ」、「みたい」に近い。このため、中国人学習者にとっては、様子の機能・用法が果たしている「なんか」は産出しにくい日本語文法項目の一つではないだろうか。

一方、学習者の認識において、「副助詞」と前置き表現（六つの機能があり）として使われる「なんか」に対応できる特定な中国語がないことも明らかになった。この二種類の「なんか」が使われた発話場面から分析すると、中国語の発話習慣で同じような場面においても、「なんか」のような特定な言語マーカーを使わないことが多い。このように、母語からの影響を受け、中国人学習者の発話において、「副助詞」の「なんか」の産出が少なかった<sup>5)</sup>。しかし、おもしろいのは、「副助詞」と同じように、学習者にとって、認識しにくい「前置き」の「なんか」の産出は、「なんか」のほかの用法より多かったところである<sup>6)</sup>。中国人学習者の発話において、最も多く出てきた「なんか」は「話題の発展」と「発話内容の具体化」の「なんか」である。アンケートで回収してきた翻訳文を見ると、「話題の発展」の「なんか」は全く翻訳されなく、「発話内容の具体化」の「なんか」は「様子」か代名詞の「なんか」と捉えられた。つまり、学習者は前置きの「なんか」の機能を正しく理解していないが、産出している。「話題の発展」や「発話内容の具体化」の文脈において、学習者は自分の頭の中で発話しようとする内容を整理しながら発話する可能性が高い。このような時、学習者は考える時間を作るため、「なんか」を「あのう」というフィラーと同じように認識し、一緒に使うこともありうるのである。

## 6. 終わりに

上述のように、中国人日本語学習者は、「なんか」を様々な解釈で認識しており、使っている。母

語からの影響を受け、中国人日本語学習者は「なんか」の機能を正しく理解していないが、口ぐせとして使ったり、フィラー的機能で使ったりしているようだ。

また、「なんか」は前置き表現として、内田（2001）で詳しく分類されているが、本稿のコーパス調査の中に出てきた「文を終える機能」のように、内田（2001）の分類に入れられない用法もある。ほかには、副助詞としても前置き表現としても解釈できる用例も少なくなかった。この点については、今後の研究で明らかにすると考える。

[キーワード] なんか 中国人学習者 母語影響 話題開始 フィラー

#### 注

- 1) OPI (oral proficiency interview) と呼ばれるインタビューテストの録音を文字化したものである。英語・中国語・韓国語話者のインタビューがそれぞれ初級5名・中級10名・超級5名含まれている。
- 2) 話し言葉のデータとして、首都圏、名古屋近辺、北海道、新潟などで録音された、初対面の人の会話から親しい者同士の雑談までが含まれている。
- 3) 『名大会話コーパス』については、今回は10ファイル分のみ調査・分析
- 4) 中国人学習者の使用例については、出現数191から、日本人の面接官の発話を除いた129の使用例を対象とし、分類した。
- 5) 表3を参照に得た結果
- 6) 表3を参照に得た結果

#### 参考文献

- 内田らら（2001）「会話に見られる「なんか」と文法化：「前置き表現」の「なんか」は単なる口ぐせか」『東京工芸大学紀要』Vol.24 No.2
- 崔春基（2007）「中国の文化と日本の文化 — 中国語と日本語の表現の相違を中心に — 」『北星論集』第44号
- 張興・徐一平（2001）「中国人学習者の作文における命題目当てのモダリティ表現について — 中国語との対照を含めて — 」『国立国語研究所』
- 許菱祥（2005）『中文文法』弘揚圖書
- 『日本語文型辞書』（2005）くろしお出版
- 『明鏡国語辞典』携帯版（2003）
- 『学研国語大辞典』第二版（1998）学習研究社
- 『白水社中国語辞典』（2002）白水社出版

## An analysis of Chinese learners' use of "nanka"

LIN, Xiao

For Chinese learners, it is difficult to acquire the ambiguous expression which is frequently used by Japanese. In order to verify how the Chinese learners comprehend and use these expressions, the paper takes example of "nanka" and conducts an investigation on database and questionnaire. The result suggests that Chinese learners use the expression "nanka" quite differently from native Japanese. An detailed analysis of every usage of "nanka" reveals the discovery: There's a Chinese equivalent, "什麼", of "nanka" when it is used as pronouns. Therefore, Chinese learners have no difficulty in using "nanka" as pronouns. However, when "nanka" is used as adverbial particles and introductory remarks, there's no such equivalent in Chinese. As a result, Chinese learners can't understand it properly and they use these "nanka" expressions as pet phrases or fillers.